

平成28年度 筑前町学力向上推進プランの指標・評価基準

筑前町学力向上推進協議会

| 学力調査等における達成目標 | | | | | | |
|---------------|--|--------|---------------------|-----------------------|-----------------------|---------|
| 項目 | 指標 | 教科 | 評価基準 | | | 評価 |
| | | | 1 | 2 | 3 | |
| 学力実態 | 全国学力・学習状況調査の調査結果 平成28年4月実施 ※対象：小学校(第6学年) 中学校(第3学年) | 国語A | 平均正答率が、県・全国をともに下回る。 | 平均正答率が、県以上または全国以上になる。 | 平均正答率が、県・全国をともに上回る。 | |
| | | 国語B | | | | |
| | | 算数・数学A | | | | |
| | | 算数・数学B | | | | |
| | | 理科 | | | | |
| 学力実態 | 福岡県学力実態調査の結果 平成28年6月実施 ※対象：小学校(第5学年) 中学校(第2学年) | 国語基礎 | 平均正答率が、県を下回る。 | 平均正答率が、県以上になる。 | 平均正答率が、県を1ポイント以上上回る。 | |
| | | 国語活用 | | | | |
| | | 数学基礎 | | | | |
| | | 数学活用 | | | | |
| 学力実態 | 学力検査の結果 (小学校) 平成29年1月実施 ※対象：第6学年児童 | 国語 | 平均正答率が、全国を下回る。 | 平均正答率が、全国以上になる。 | 平均正答率が、全国を1ポイント以上上回る。 | |
| | | 社会 | | | | |
| | | 算数 | | | | |
| | | 理科 | | | | |
| 学力実態 | 学力テストの結果 (中学校) 平成29年1月実施 ※対象：第3学年生徒 | 国語 | 平均正答率が、県を下回る。 | 平均正答率が、県以上になる。 | 平均正答率が、県を1ポイント以上上回る。 | |
| | | 社会 | | | | |
| | | 数学 | | | | |
| | | 理科 | | | | |
| | | 英語 | | | | |
| 合 計 | | | | | | #DIV/0! |

| 学校の組織的な、工夫ある、継続的な取組 | | | | | | | |
|---------------------|------------------------|--------------------------------|---|--------|---|--------|---|
| 項目 | 目標 | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | |
| | | 具体的な取組 | 評価 | 具体的な取組 | 評価 | 具体的な取組 | 評価 |
| 授業づくり | 児童生徒の授業評価 (平成28年12月実施) | 授業満足度をアップする。 | しかけのあるめあてづくり、説明活動を楽しむ展開、授業後の振り返りを行う。 | 2 | 「書く・話す」活動の充実のため、多様な表現方法を用いた学習活動を実施する。 | 3 | 「書く・話す」活動の充実のため、多様な表現方法を用いた説明活動を取り入れた授業を実施する。 |
| | 校内研修の充実 | 校内研修で授業力を磨く。 | 指導案を書いて授業を公開する(年2回) | 3 | 「しかけ」「書く・話す」「振り返り」を位置づけた指導案を書いて、授業を公開する。(年2回) | 3 | 「しかけ」「書く・話す」「振り返り」を位置づけた指導案を書いて、授業を公開する。(年2回) |
| | 学力の実態の分析と共通理解 | 学力の実態を分析し、全職員で共通理解する。 | 学力調査の結果を学力向上委員会で分析し、課題を共有したり、授業改善を考えたりする研修をもつ。 | 3 | 学力調査問題を全職員で解いたり、調査結果の分析、課題の共有化を図ったりする研修を実施する。 | 3 | 学力調査問題を全職員で解いたり、調査結果の分析、課題の共有化を図ったりする研修を実施する。 |
| 学びの基盤づくり | 学習規律の確立 | 全学年共通の学習規律と発達段階に応じた学習規律の徹底を図る。 | なかむた「学びの構え」を毎時間確認する。 | 3 | 発表の仕方等を教室に掲示したり、なかむた「学びの構え」を毎時間確認したりする。 | 3 | 発表の仕方等を教室に掲示したり、なかむた「学びの構え」を毎時間確認したりする。 |
| | 補充学習等の実施 | 補充学習等を実施し、学力の定着を図る。 | 学びタイム、放課後学習、長期休業中の学習を計画的に実施する。 | 3 | 学びタイム(活用力の育成)、放課後学習(基礎基本の定着)を計画的に実施する。 | 3 | 学びタイム(活用力の育成)、放課後学習(基礎基本の定着)、パワーアップタイム(習熟学習)を計画的に実施する。 |
| 連携づくり | 学習サポーターの活用 | 大学生、PTA、地域住民を活用し、個に応じた指導を行う。 | 放課後のエンジェル等に、補充学習を中心に、入ってもらい、個に応じた指導の充実を図る。 | 4 | 放課後のエンジェル・赤ペン応援隊に、放課後学習や学びタイムに積極的に参加していただき、個に応じた支援の充実を図る。 | 4 | 放課後のエンジェル・赤ペン応援隊に、放課後学習や学びタイムに積極的に参加していただき、個に応じた支援の充実を図る。 |
| | 家庭との連携 | 家庭学習を充実する。 | 年度初めに家庭学習の手引きを配布すると共に、家庭学習強化週間を毎学期設定し、家庭学習の実施率100%を目指す。 | 3 | 家庭学習とことん期間を毎学期2回設定し、予習の実施率を高める。 | 3 | 家庭学習とことん期間を毎学期2回設定し、復習+活用力を高める課題に継続して取り組むようにする。 |
| 合 計 | | | | | | | #DIV/0! |

4 計画以上に実施できた 3 十分に実施できた 2 十分には実施できなかった 1 実施できなかった